

会 議 記 録 （ 概 要 ）

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和4年度第1回高松市総合都市交通計画推進協議会
開催日時	令和4年5月27日（金）10時00分～11時00分
開催場所	高松市役所13階 大会議室
議題	議事 (1) 令和3年度取組結果及び令和4年度事業について (2) 地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	土井会長、紀伊副会長、四之宮委員（代理：新居）、川上委員、斎藤委員、野口委員、寺師委員、古川委員、土井委員、東原委員、黒木委員、関口委員、手嶋委員、岩崎委員（代理：水尾）、渡委員、板東委員、山崎委員、圖子委員、佃委員、林委員 オブザーバー：石丸課長、尾幡課長 （欠席者：委員1名）
傍聴者	1人（傍聴席：10席を確保）、報道 0人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果
<p>開会 （事務局） 新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、オンラインと会場を併用し開催した。 本日は、委員の半数以上が出席しているため、当協議会設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立する。</p> <p>1 議事 次の議事について協議し、下記の結果となった。</p> <p>（1）令和3年度取組結果及び令和4年度事業について ・・・・事務局から説明（資料1、2）</p> <p>以後審議 （会 長） コロナ禍で公共交通の利用者が戻っていない状況ではあるが、ことでん新駅「伏石駅」の利用</p>

者はどのように推移しているか。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の影響で公共交通の利用者が減少していることは認識している。事業者から聞くところによると、利用状況はコロナの状況に影響され、感染が拡大すると利用者が減少し、収まってくると利用者が増加するという現象が、ここ1、2年繰り返されている。このような状況のため、伏石駅の完成により利用者が増加したかという分析まではできていないが、利用者は少なからず増えている傾向である。ただ、コロナの状況により、利用状況も大きく変動するというのが現況である。

(会長)

ことでんから補足はあるか。

(委員)

鉄道全体ではコロナの影響を受けて25%減程度で推移しているが、今年に入り定期外利用で5%程度戻っている。伏石駅単体で見ると、少しずつ増加している状況である。現在、路線バスがそれほど結節していない状況であり、バス運行の認知度も低いと思うので、認知度が上がってくれば、それなりの利用があるのではないか。

また伏石駅は、高速バスのことを考えて、電車利用からバスを利用させていただくという点が大きかったと思うが、そこがまだ機能していないので、今後、インバウンドを含めた利用が増えてくれば、本来の目的の伏石駅になってくると思う。コロナの収束を期待しながら、今後も利用拡大を目指したい。

(会長)

バタクスについて現状の報告があった。まだまだ利用者が少ないということは把握できたが、資料2の19ページの課題の中にある事業者の視点において「ビジネスモデルの構築」と記載がある。実証において、既にこの事業のためだけに車両を押さえず、現行リソースの範囲内で車両運用できていることに加え、タクシーのドライバーが新しい取り組みのために車両を回してくれていることを確認できているということで、事業者の視点でのビジネスモデルは構築できたと認識しているが、課題というよりも、既に構築済ということではないか。

(委員)

今回のバタクスについては、タクシーを活用して、需要に応じた供給の最適化を行った持続可能な公共交通のネットワークを構築していきたいという想いの中、進めているものである。

会長から御指摘いただいた通り、ある程度、既存のリソースの中で回すことが出来ているという認識であるが、これが広がっていった時に、ビジネスとして成り立てるかどうかについては、まだ課題としてあるという認識である。

今後ともタクシー協会と連携を図りながら、バタクスの構築に向けて進めていきたい。

(会長)

タクシー協会から、御説明いただけることはあるか。

(委員)

バタクスに関しては、まだまだ利用者数が伸びていない状況ではあるが、この理由に、定時定路線型とデマンド型の2種類の運行形態を取っていることがあるのではないかと考えている。

今後、行政、事業者の意見を聞きながら、タクシーのひとつの新しいモデルとして構築し、最

初の成功事例としていきたいと思っている。

(委員)

令和4年度事業についても各種盛り込んでいただいていると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いており、四国全体でも、令和4年4月に入り昨年度3月より回復度合いは各モードで見られるものの、コロナ前よりは厳しい状況である。

このような中で、高松市においては令和3年度に利便増進実施計画を策定いただき、事業を始めて半年くらい経った。この後、地域公共交通確保維持事業の議題もあるが、今般の利便増進実施計画の認定に伴い、フィーダー系統と地域間幹線系統のそれぞれにおいて、国から再編による特例の支援を予定させていただいている。

バスネットワークについては利便性向上を図る再編をしていただいているが、経路が変わると利用動態が変わる可能性もあるので、利用状況を確認しながら、市でバスの補助に対する負担が減った分、具体的な利便性向上に伴う利用促進につなげていただきたい。国庫補助の特例は、市の財政負担を少なくするというのではなく、公共交通を活性化再生するためのものであるため、ぜひ、まちづくり、地域活力維持の観点から、精力的な利便性向上策を講じていただきたい。

(2) 地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）について

・・・事務局から説明（資料3、別紙）

以後審議

(委員)

資料3の4ページ、市の補助制度と合わせた地域内フィーダー系統の支え方について、ケース1から3で表されているが、ケース1に当たるという事でいいか。

(高松市)

現況においては、系統によってケース1とケース2の場合がある。

(委員)

基本的に事業者負担がある可能性がある、ということですね。

(事務局)

そういうことである。

(会長)

地域公共交通確保維持事業について、事務局においては、この案で国への提出を進めていただくことを願います。

(3) その他

(委員)

協議会においては、中長期の高松市の公共交通政策について議論いただいている。引き続き利便性向上策等、精力的に取り組んでいただければと思うが、短期的には、交通事業が非常に疲弊している状況にある。短期目線での支援メニューとして、国から臨時交付金等の措置もなされているので、新型コロナウイルス感染症の影響により事業者負担が生じている分、感染症対策に必要な分、燃料費高騰の影響を受けて経営支援が必要な分等について、戦略的に支援いただければと考えている。これは中長期目線とは別に、当面の事業継続をしていただくため必要なものであ

るので、県と市に対してお願いしたい。

(事務局)

来週の臨時議会において、高松市独自の公共交通の利用を促す施策や、事業者への支援という形で、公共交通を維持・回復させるための施策を講じている。短期的には、手嶋委員からの御発言の形で進めていこうとしているが、今後、利便性が図られる新たな施策について、高松市独自だけではなく香川県全体の中でも考えていかなければならないと思っており、県との連携を図るとともに、国にも相談させていただきながら進めていきたいと考えている。

(会 長)

香川県はいかがか。

(委 員)

国の臨時交付金を活用した支援として、県では公共交通等利用回復緊急支援事業を行っている。燃料費対策としても、現在、精力的に検討しているところである。また、事務局から話があった「県全体の中で」というところについては、今年度、鉄道ネットワークあり方懇談会の開催を予定しており、県全体で鉄道をどのように支援していくかということも含めて、協議しながら御意見をいただき、検討を進めていきたいと考えている。

(会 長)

是非とも、高松市、香川県、運輸局が支え方の歩調を合わせ、長期的、短期的にも色々なアイデアを出していただければと思う。

また、この会議は事業者だけでなく、色々な立場の方に御参加いただいている。

公共交通の維持は、地域活性化に直結するものである。これまでは、中心市街地の活性化という非常に大きな、公共交通と連動した話だったが、例えば、議事2において高松西高線が描かれていたが、中心市街地から離れた場所にある高松西高校において、利便性が高く遠方から学生が通えるような路線が出来ることで、多くの学生を呼び込み偏差値が上がっていくような、そんな効果もあるのではないかと考えられる。色々な視点でバス路線の再編を行っていると思うが、クロスセクターの様々な効果が期待できるので、皆様から色々な意見が頂ければと思う。この機会に公募委員の皆様、御意見はないか。

(委 員)

私は高松市内に勤めており、毎日ことでんを利用している。通勤、通学の利用者が多く見られるが、郊外の方では駅まで行くことが難しい方が多いと思うので、今、実証しているタクシー等を活用した計画など、たくさんの方が、ことでんやJRなど公共交通を利用していただけるような仕組み作りを続けていただきたい。

(委 員)

私は車の免許を持っておらず、移動の際には公共交通を使ってきた。昨年、足を怪我したことからタクシーを使っているが、このような立場になって一度だけことでんに乗ってみた。その中で気付くこともあったので、今後、そういった意見も出していければと思う。

(事務局)

今のお話を承り発言させていただく。議事の中にもあったが、昨年度、高松市自転車等駐車対策総合計画を策定した。計画において、自転車と公共交通をつなぐ観点から、鉄道駅には駐輪場を設ける等の施策も盛り込んでおり、駅に自転車を止め、中心市街地には電車やバスを利用して、

来ていただけたらと考えている。

(会 長)

意見交換となったが、他に事務局からあるか。

(事務局)

次回の協議会開催は、11月を予定しており、日程についてはあらためて調整させていただく。

閉会

以 上